



26 今尾景年

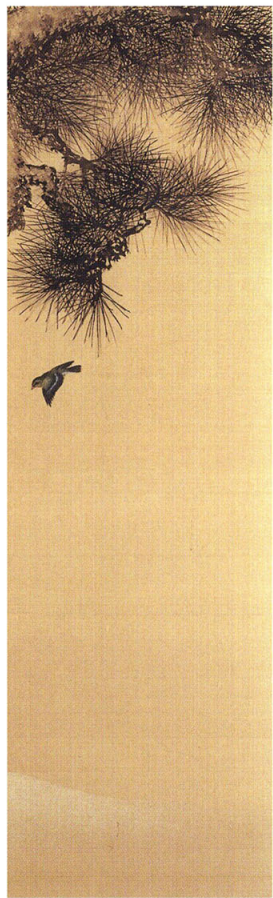
《花鳥之図》 六曲一双

大正五年（一九一六）

絹本金地着色

本紙各一七七・九×三八一・六

大正の大札に際して、宮内高等官一同より大正天皇と貞明皇后へそれぞれ金屏風一双を献上することが計画され、融金（お金を出し合うこと）により、三千二百円余りの予算が立てられた。金屏風は絹地で、表には絵が描かれることとし、天皇へ献上の品は今尾景年（一八四五〜一九二四）へ依頼され、大札の翌年に完成したのが本作である。なお、皇后へ献上の品は野口小蘋により青緑山水図が描かれた。景年はこの大札に際して本作のほか、大饗の儀の玉座の背景を飾る《錦軟障》への千年松山水図の揮毫を担当し、帝室技芸員として重い責務を果たしている。本作では、右隻には春と初夏、左隻に秋冬の草花を配し、大きな松の枝が左右を繋ぐように描かれ、ハッカク、キンケイといった美しい羽毛を持つ鳥を中心に、十三種あまりの様々な鳥が見いだせる。花には蘭や薔薇、芍薬、菊などが取り合わされ、全体に吉祥意のある主題でまとめられている。景年は、明治二十四年（一八九一）に出版された『景年花鳥画譜』で知られるように、花鳥画を得意とした画家である。同画譜は、百種類以上の鳥が四季の草花とともに描かれ、その序文では、景年の師である鈴木百年より「禽鳥之神彩飛動（描かれた鳥の姿はまるで躍動しているようである）」と賞賛された。本作は景年晩年の花鳥画の集大成ともいえるべき作品である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan